

武井 誠 活動報告

武井 誠 を励ます会

〒350-0253 埼玉県坂戸市北大塚 40
TEL 049-289-2527 ケイタイ 090-9854-5175
<http://www.takei-makoto.org/>
E-mail takei@sakado-gr.org

29号

- ◆あなたの声を市、県、国政へ
- ◆武井 誠 の議会活動
- ◆「パートナーシップ公的認証」請願採択
- ◆「脱原発」と環境保全を考える
- ◆リレーエッセイ・インフォメーション

「あなた」の声を市、県、国政へ

上の写真は、稲刈りの時期が来たのに、水はけが悪く、機械を入れることができないと耕作者の方が訴えておられる水田です。道路、水路、農地転用による宅地開発など様々な問題が絡み合っているとのこと。

下の写真は、通学路の横断歩道と信号機の位置関係が悪く、小・中学生の登下校などの交通安全が心配であるという声が寄せられている交差点です。

◆
そのほか、住民税・国保税・介護保険料についての疑問と不安、職場でのセクハラ・パワハラ、転入者を含めた地域交流の場づくり、原発再稼働への不安・怒りなどの相談をお受けしています。

「小さな声」が届いたら、ともかくも行動するという心をかけています。短期間ではできない課題も多いですが、あきらめずに解決の道を探ります。

◆
たとえば、税金や保険料などについては県政、国政が、市政に大きな影響を与えます。

また、戦争と原発事故は、市民の安全・安心を根底から奪い去ります。欠陥機オスプレイの坂戸市への飛来、市からわずか122キロに位置する東海第二原発など老朽化した原発の再稼働、そして公的な記録を改ざん・隠ぺいし、「悪法」強行採決を繰り返し、その総仕上げのように、憲法を壊そうとする安倍政権に対して「NO!」の声を上げていきましょう。

11月6日、社民党埼玉県連合として上田知事に県政要望を提出します。また、憲法改悪反対の3000万署名に取り組んでいます。

ご協力を、お願いいたします。



ホームページの活動日記を毎日更新しています。「武井誠」と入力し検索をクリックしてください。活動予定、災害情報、無料法律相談案内等もご覧いただけます。

ツイッター、フェイスブックからも発信しています。無料メールマガジンも通算126号になりました。

毎月1日、15日に配信しています。武井誠ホームページから、お申し込みください。

12月議会へ 市政への要望をお聴かせください

坂戸市議会 12月定例会は11月28日ごろ開会予定です。みなさまの声をもとに質疑・一般質問を行っていきます。お寄せいただいた声と9月議会を中心とした私の活動を、順不同で紹介させていただきます。さらなるご意見・ご質問をお待ちしています。

女性の雇用・昇任・昇格について

入試で女子合格者数を抑えていた東京医科大学の関係者は新聞取材に「出産や子育てのために休職・退職する女性医師が敬遠される中での暗黙の了解だった」と答えています。働く環境での女性差別を痛感させられます。

武井誠の一般質問に対して市は「女性職員の登用は重要な人事管理」としていますが、同時に管理職試験の女性受験者数が低く、その大きな原因に出産・育児をあげています。

「パワハラ」等の相談が急増

さらに深刻なのは、職場におけるセクハラ、マタハラ(妊娠をめぐる女性へのハラスメント)、パワハラです。官民を問わず、私たちへの具体的な相談が急増しています。時に弁護士さんを交えながら相談活動をしていますが、いろいろな事情で公にできず休職、退職に追い込まれてしまう深刻な場合も少なくありません。市役所でも、公立小中学校でも、研修(特に管理職の研修)、相談体制の充実などの対策が答弁されましたが、公務職場の状況が民間に与える影響も大きいことから、今

後も取り組みを注視していきます。お悩みの方は、どうぞお気軽にお声かけください。もちろん、プライバシーは厳守致します。

教育を歪める全国学力調査

莫大な予算を使って毎年一斉に行い、公表される平均点で学校や市や県が一喜一憂し、競い合うことにどんな意味があるのか、むしろそのことによって生じる弊害の大きさに気づくべきだ、と「しつこく」質問しています。

重要課題が、たくさんあります

他にも多くの課題・要望を頂いています。

- ・ 地域の人たちが集える「場」を。
- ・ 認知症の方たちを支える取り組みを。
- ・ 地域公共交通の在り方について。
- ・ 地公法改正による会計年度職員任用制度。
- ・ 「公契約条例」の制定。
- ・ 部落解放基本法の具現化。
- ・ 豪雨に伴う冠水、浸水の問題

緊急性などを勘案しながら、順次取り上げていきます。

「パートナーシップ公的認証」請願採択

9月議会で「坂戸市における同性パートナー等の「パートナーシップ公的認証」を求める請願が、全会一致で採択されました。

性的少数者の人権を保障する施策を進めていく上で、大きな力となる可能性があります。

紹介議員となり、6月議会から継続して請願者の方と一緒に頑張ってきた一人として、また、この問題に40年来取り組んできた性的少数者の友人を持つものとして、感慨深いものがありました。

同様の請願を採択する地方議会が増えています。さいたま市ほか、行政がその実施を表明するところも出て来ました。請願採択を受けて坂戸市の取り組みが促進されるよう注視し、一般質問などでさらにがんばります。



5月3日、東京レインボープライド2018@代々木公園に行ってきました。若者たちによる、LGBTをテーマにしたミュージカルショーが行われていました。

「脱原発」と環境保全を考える

原発事故は収束していない！

10月8日に福島第一原発付近を視察



原発付近の帰還困難区域を縦断する国道 6 号線を北上して浪江町役場へ。さらに 114 号線を車で走行しました。窓の開閉も長時間停車も許されない車中の線量計は、毎時 3μシーベルト以上を示していました(坂戸市除染基準は地表 50 cm で 0.25)。田畑だったところは雑草が生い茂り、劣化した膨大な量のフレコンバックには緑色のシートがかけられていました。帰還する住民が少ないのも当然です。

忘れてはならない厳しい現実が、そこにありました。

茨城の東海第二原発を廃炉に

坂戸市 9 月議会では市民陳情の審査なし

このような事故が繰り返されることは、絶対にあってはなりません。

しかし埼玉県に最も近く、坂戸市と 122 km しか離れていない老朽原発、茨城県東海第二原子力発電所が再稼働されようとしています。法律で定められた原発の運転制限 40 年をさらに 20 年延長する日本原電の申請を、原子力規制委員会が認可しようとしています。

9 月議会に市民の方たちから「このことに反対する意見書を国に提出せよ」という陳情書が出されました。取り上げて議論することを要請しましたが、議会運営委員会を取り上げないという判断がなされました。

他の自治体のことに市議会が口出しするの

は慎重に、というのがその主たる理由でしたが放射性物質は県境で止まってはくれません。また、原発の 30 キロ圏内には 96 万人(避難対象者)が居住しています。

意見書を提出する近隣自治体もたくさんあります。坂戸市も！と武井誠は考えます。

すべての「命を守る」が基本

エネルギー政策転換と環境保全の両立を

安全性、経済性、環境への影響、どの側面からみても原発から再生可能エネルギーへの転換が必要です。ただ、坂戸市では城山地区で、民間業者による太陽光発電施設の設置をめぐる自然保護の問題が発生しました。

希少植物保護の観点から 2 月に県と市の実地調査が行われ、6 月に業者が計画を断念するという意向を県が把握、そして下記新聞報道のように土地の公有化が実現しました。関係する方たちのご努力に心から敬意を表します。知恵と力を出し合うことによって太陽光発電と自然との共生は可能です。しかし原発では不可能。「命を大切に」という思いを共に、さらに取り組みを進めましょう。

坂戸の希少植物群生地公有化

地権者、市へ寄贈 (2018. 10. 7. 朝日新聞)

県指定の希少野生動植物種で、ラン科の多年草「コクラン」の群生地がある坂戸市城山地区の山林を、地権者が市に寄贈した。一帯で民間業者が太陽光発電施設の開発を計画したが、反対していた地元の自然保護団体が用地内でコクランを偶然見つけたため、6 月に断念。土地の公有化で問題が落ち着いた。

市によると、約 40 ヘクタールある城山にはサワギキョウなど希少植物が散在し、市が「城山の森」として整備。私有地は全体の 3 割ほどしかないので、地権者の承諾を得ながら間伐するなどしてきた。9 月に寄贈があったのは約 3.6ha。このうち計 1.7 ヘクタールで開発計画があり、市は「民有地なので止める権限がない」としていた。

城山で自然観察を続けてきた「坂戸サワギキョウの会」などが今年 1 月にコクランを見つけたのが、開発に待ったをかけた。代表の萩原章さんは「今回の問題が、市が城山の自然保護へ本腰を入れる契機になれば」と話している。

あなたの平和・私の人権 ～連載：市民の声⑤～

「リレー エッセイ」のコーナー。あらゆるジャンルの様々な方の声を掲載させていただいています。今回は特別編、社民党の機関紙「社会新報」に掲載されたルポライター鎌田慧さんの文章です。新報購読料は月700円、武井誠デイレポ配布版等と共に週1回お届けします。

変革の報道を(一部抜粋)

社会新報 5000号に寄せて 鎌田 慧

昔、学生の頃「商業新聞」(一般紙)のことを生意気な学生たちは「ブル新」と批判していた。それでも60年代、新聞は、政府に対して今よりもはるかに批判的だった。今や、公然たる権力ヨーゴ新聞が現れた。想定外である。

「政府が右というのを左というわけにはいかない」とか言って、世間を騒がせたNHK会長がいた。ジャーナリズムの何たるかをわきまえない男を、言論媒体の最高責任者にするほど、政権は国民をなめきっている。

今は、それほど露骨ではなくなったが、NHKが安倍政権に従属的なのは、NHKニュース

を見れば明らかだ。「公共放送」の看板が泣く。最近雑誌が売れなくなった。取材費を出せないために、ルポルタージュが払底している。庶民生活がどうなっているか、などの報告は極端に減った。ジャーナリズムは取材なくして成立しない。取材費枯渇は、ジャーナリズムの枯渇である。

各地にいる党员ばかりか、支持者や協力者の報告が機関誌の財産である。日常活動が活発なら報告したいことが山ほどある。報告を報道に転換させる訓練がさらに必要になる。

今の大マスコミには、権力監視と社会変革の志はうすい。この志を忘れたカナリアへの批判は必要だ。が、そればかりではなく、自分たちでの対抗が必要とされている。

無料市民生活相談会継続中

日常生活での悩みごとに、弁護士、社労士、税理士、心理カウンセラーが無料で相談。13時～武井誠との市民生活相談、14時～年金相談、15時～法律相談、相談時間は30分です。税務、家庭相談は随時となります(要予約)。次回は、北坂戸の文化施設オルモで11月17日(土)。次々回は、同じくオルモで12月22日(土)になります。

緊急の場合には、有料となりますが信頼できる弁護士事務所、社労士、税理士事務所を紹介します。詳しくは、武井誠ホームページ、又は武井まで直接お問い合わせください。(ケイイ 090-9854-5175)

憲法と教育の未来 前川喜平講演会

日時 12月11日(火) 18:30
場所 ウエスタ川越
参加費 前売り 800円(当日 1000円)



北海道胆振東部地震 災害救援カンパ

街頭カンパにご協力ください。
郵便振替をご利用の場合は下記までお願い致します。

郵便振替口座番号
00180-4-602982
口座名 社民党・災害緊急カンパ



坂戸ギタークラブが「歌のつどい」の出前します(^_^;)

坂戸ギタークラブ(代表:武井)は入西地域交流センターの定期利用団体です。初級のクラシックギター合奏を楽しんでいます。毎月第1・第3・第4日曜の午後に練習しています。(第4日曜は古典ギター)。童謡・唱歌・懐かしい昭和歌謡の「歌の集い」の伴奏もします。お気軽にお声かけください。詳しくはホームページに「坂戸ギタークラブ」で **検索** してください。

←9月25日には勝呂公民館の「お月見の会」で演奏させていただきました。